

坂本 興平

【はじめに】

創立から54年目を迎える五所川原青年会議所には、脈々と受け継がれてきた熱き志と実現力、強いリーダーシップ、仲間との深い絆、そして創始の精神があります。

様々な時代の遷り変わりの中で我々を取り巻く環境も常に変化を遂げています。しかし、いつの時代においても人をおもいやる心、互いの自己成長への願い、切磋琢磨する姿勢は、今もなお五所川原青年会議所の基盤となっています。

当会は多種多様な経営者や経済人が集い、地域発展や社会貢献のために、それぞれの時代の中で、仲間たちが心と心をつなげて、お互いを思いやりながら運動を展開して参りました。いつの時代も、地域の「明るい豊かな社会」の実現を目指し、まちづくりとひとづくりに励んで来られた諸先輩方の歴史があるからこそ、我々もJC活動ができるのです。

諸先輩方のこれまでのご功績に感謝と敬意を表しながら、「明るい豊かな社会」の創造に向け、仲間と共に本年も邁進して参ります。

【公益社団法人の維持継続に向けて】

五所川原青年会議所は、国の公益法人制度改革による公益社団法人への移行を行ったのが2012年度であり、今年で7年目となります。今年度もその担いは変わることなく、今後も行政との連携を図りながら、確実な組織の運営体制を継続していかなければなりません。

その為には、明瞭な財務並びに法制管理を堅持しつつ、総務委員会を中心とした総会の企画運営を行うと共に、定例会での設営を確実に取り仕切り、当会の運動発信が十分に果たせるよう取り組んで参ります。

地域からの信頼も得られるよう、公益法人としての責務を果たすことにより、「明るい豊かな社会」の実現に繋げて参ります。

【青少年の育成に向けて】

現代の子ども達を取り巻く環境は、かつての農耕社会から工業社会へ、そして現在は、急速な情報社会へと大きな構造変化の渦中にあります。このような社会構造の変化に伴い、現在、共働き世帯が就業世帯の半数を超え、両親が家庭にいる時間が少なくなり、また、地域社会の連帯感も希薄になっています。このような近年の急速な社会構造の変化により、我々が子どもの頃当たり前のように受け止めていた社会環境と比べ大きく変化してきています。このような時代だからこそ、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く子ども達を育成していかなければなりません。

地域の宝である無限の可能性を秘めた子ども達の未来を切り拓くべく、我々は次代を担

う子ども達が健全に成長できる機会を創出して参ります。

その為には、子ども達に多様な事業を経験していただき、体験と学びを通じて自分自身と向き合いながら、他者と心を通わせると共に、社会性を育むことで心身の成長を促して参ります。

子ども達が心身共に成長していくことにより、地域の未来を担う人材になることを確信し、行動して参ります。

【50周年を見据えたまつりの運営】

「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穰」「悪疫退散」の祈りを込めて毎年開催されている伝統行事「奥津軽虫と火まつり」は、市民の皆さまと先輩諸兄のご支援ご協力により46回目を迎えます。これからも地域の幸せを願うまつりとして継承と発展ができるよう、関係諸団体との連携を密にしつつ、運動を展開しなければなりません。

その為には、まず会員一人ひとりのまつりに対する意識高揚を図りながら、関係団体と連携し、近年に引き続き地域の次世代を担う青少年によるまつり事業への参画を通して「奥津軽虫と火まつり」の意義や目的を学ぶと共に、地域へ広く伝えて参ります。

50周年を見据え、昨年度関係団体と共に初めて開催した「まつりを考える事業」の討議結果も参考にしながら、運動を展開していくことにより、この歴史ある伝統行事を継承・発展して参ります。

【前向きな社会参画とまちづくりに向けて】

国により掲げられた地方創生は、地方の停滞を払拭させ、日本全体の活力を上げることが目的とした政策であります。実際に自分たちの住み暮らす地域をより良い形に変えていくことができるのは、その地域に住み暮らす「人」であり、人々による社会参画を原動力として地域活性をしなければなりません。

その為には、2012年度から五所川原市との協定により実施されている五所川原市民討議会を開催することで、市民がまちづくりに携われる機会を創出するとともに、地域の持つ特色や課題について考え、前向きな社会参画意識を醸成します。

明るく豊かな地域の創造実現に向けて、単一の個人や組織のみならず、「市民」「行政」「当会」の三位一体による連携と協働を図りながら、地域の発展に寄与して参ります。

【会員拡大と会員資質の向上に向けて】

青年会議所運動が地域に伝わり広がっていく力は、それに携わる会員の人数や会員相互の協調性と個人のスキル発信力に左右され、両者が高ければ高いほどその結果は相乗効果を成して表れます。当会の運動が地域に実を結んでいく為にも、会員の拡大と資質向上は恒久的な課題として会全体が意識を共有して取り組まなければなりません。

その為には、まず担当委員会が中心となり、会員獲得に向けた情報収集を行うと共に、

会全体での拡大へ取り組んで参ります。更には、会員相互の各種交流を図るとともに、多面的な学びの機会を設けることで地域へと還元できる人材の育成を図ります。

一人でも多くの会員と共に青年会議所運動を力強く推進していくことにより、「明るい豊かな社会」の実現に繋げて参ります。

【結びに】

私は2008年10月まで東京都内の会社に勤務しており、公共工事主体のインフラ整備事業に従事しておりました。今現在とは、違う形での職業を通じてのみ、公益に資する活動をして参りました。父親の体調不良をきっかけにゼネコンを退社し、2010年1月当時の社団法人五所川原青年会議所に入会致しました。同時期に他の社会奉仕団体、地域活性化団体にも多数入会し、何がなんだかよくわからないというのが当時の心境でした。そんな中で青年会議所運動を通じて、長時間仲間と時間を共有するにつれ他団体との違いが見えて参りました。やはり、20歳～40歳という限られた年齢制限の中で同世代ということもあり、遠慮なく本音で議論することで、距離が近くなったものと考えます。入会した当時はあと〇〇年もあると何度も考えたものですが、気づくともはや卒業が近い年齢に達して参りました。今まで長きに渡り先輩諸兄や仲間達からいただいた、たくさんのご恩を1つでも恩返しするべく、次世代の担い手育成はもちろんのこと、今年度も仲間と共に切磋琢磨しながら成長（GROW UP）し続けることにより、JCの一人ひとりが地域を照らす未来の希望となり、さらに一人ひとりが主体的に運動展開することで、「明るい豊かな社会」の実現に繋がるものと確信し邁進して参ります。

基本計画

【基本理念】

感謝・信頼・希望

【基本方針】

- 1、公益社団法人の継続と責務の履行
- 2、青少年の可能性と未来を切り拓く育成事業の開催
- 3、次なる半世紀を見据えた「奥津軽虫と火まつり」の開催
- 4、前向きな社会参画意識によるまちづくり運動
- 5、会員拡大と会員の資質向上の推進

【LOMスローガン】

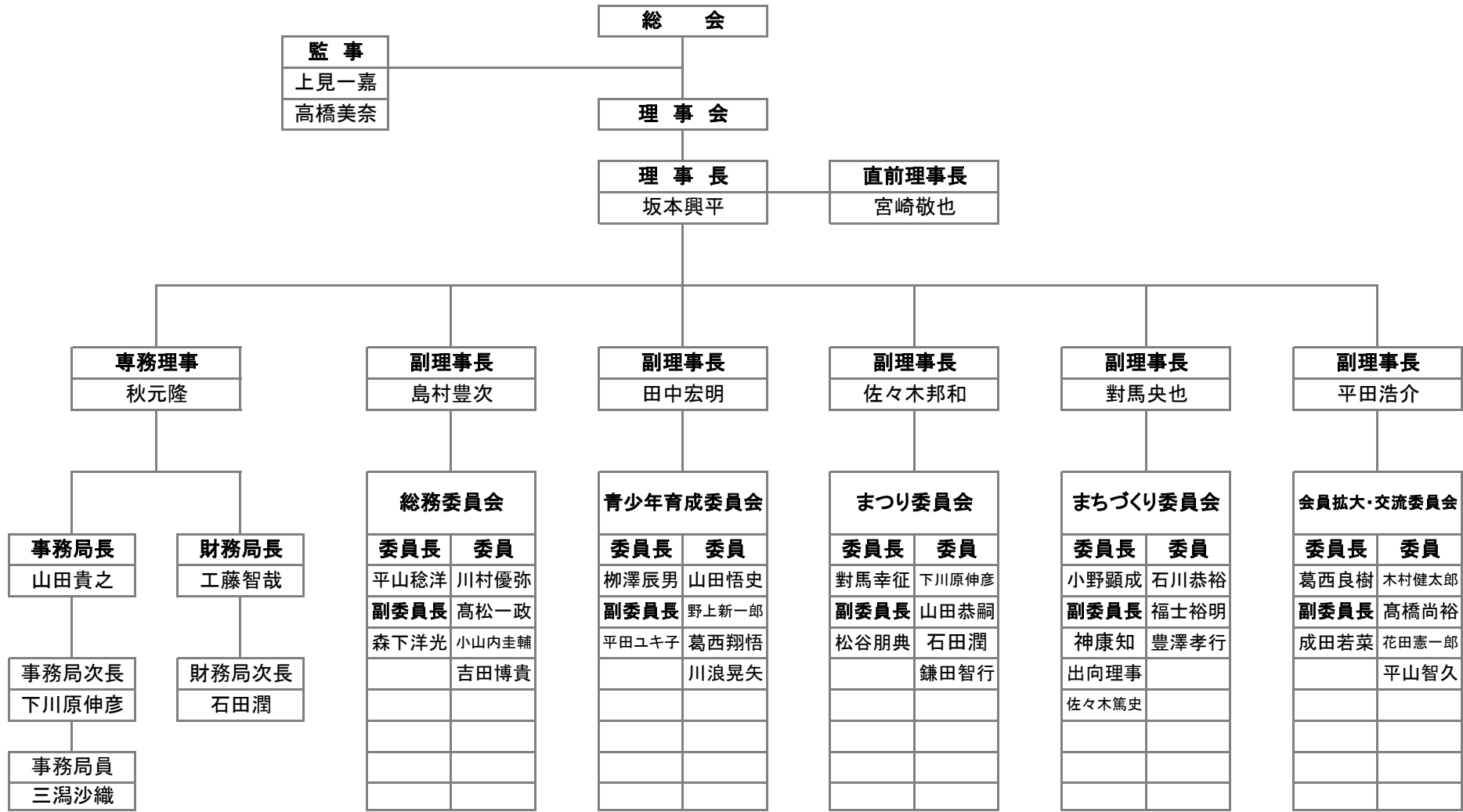
GROW UP

～一人ひとりが未来の希望～

公益社団法人 五所川原青年会議所 2018年度 理事及び監事

理 事 長	坂 本 興 平
直 前 理 事 長	宮 崎 敬 也
専 務 理 事	秋 元 隆
副 理 事 長	島 村 豊 次
副 理 事 長	田 中 宏 明
副 理 事 長	佐 々 木 邦 和
副 理 事 長	對 馬 央 也
副 理 事 長	平 田 浩 介
総 務 委 員 長	平 山 稔 洋
青 少 年 育 成 委 員 長	柳 澤 辰 男
ま つ り 委 員 長	對 馬 幸 征
ま ち づ く り 委 員 長	小 野 顕 成
会 員 拡 大 ・ 交 流 委 員 長	葛 西 良 樹
事 務 局 長	山 田 貴 之
財 務 局 長	工 藤 智 哉
出 向 理 事	佐 々 木 篤 史
監 事	上 見 一 嘉
監 事	高 橋 美 奈

公益社団法人五所川原青年会議所2018年度組織図



2018年度 公益社団法人 五所川原青年会議所 出向者一覧

◆日本青年会議所

財政審査会議 幹事 高橋 美奈

LOM支援グループ 日本アカデミー会議

委員 佐々木篤史

◆東北地区協議会

財政規則審査委員会 委員長 高橋 美奈

財政規則審査委員会 委員 平田ユキ子

東北ゼミナール委員会 委員 對馬 幸征

組織連携推進委員会 委員 高橋 尚裕

◆青森ブロック協議会

青森の未来選択委員会 担当副会長 宮崎 敬也

委員 田中 宏明

青森の安全・安心構築委員会 担当副会長 宮崎 敬也

委員 佐々木邦和

強靱な組織開発委員会 委員長 佐々木篤史

運営幹事 工藤 智哉

委員 葛西 良樹

青森の魅力発信委員会 委員 山田 悟史

総務委員会 委員 松谷 朋典

青森アカデミー大学 塾生 柳澤 辰男

塾生 松谷 朋典

塾生 山田 悟史

塾生 野上新一朗